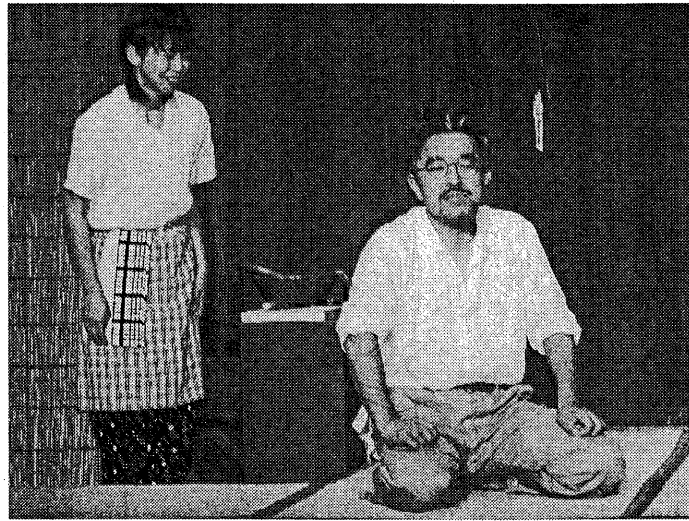


広島原爆の日 8月6日に

劇団シューティングスター
「父と暮らせば」上演



「父と暮らせば」の一場面＝シューティングスターの過去の公演から

すわこ文化村

原爆に人生を狂わされた父子の姿を通し、人間愛や親子愛を描いた作家井上ひさしの傑

作劇「父と暮らせば」が、広島原爆記念日の8月6日(月)午後7時から、岡谷市長地権現町の諏訪湖ハイツで上演される。

諏訪地方を中心に活動するアマチュア劇団「シューティングスター」による二人芝居。同劇団が17年ほど前から地道に続けてきた公

演を、「感動あふれる文化企画を通じ、人と人とのつながりを再生したい」と活動しているすわこ文化村(毛利正道代表理事)が、核問題が問われている今だからこそと終戦から67回目の夏に開催する。

シューティングスターの牧野内俊司代表(52)と団員の松下ちふみさん(ともに会社員)が出演。被爆した娘・福吉美津江の前にぶらりと現れた父・竹造。原爆投下から3年がたった1948年夏の広島を舞台に、娘と父の4日間を井上ひさし

しくほのほのと描く。笑いや涙、父が子を思う愛などを通し、絶望の中から生きる希望を見いだしていくドラマ。

松本市や諏訪地方の学校、図書館などで公演を続けてきたという2人は「昨年の東日本大震災以降、この作品の力をより強く感じる。市井の人が原爆でどう変わっていったか、生の舞台を通じて考える機会にしてみたら」と話す。

公演時間は約1時間半(1幕4場)。参加費は一般千円、学生500円。諏訪湖ハイツ中2階の大会議室で開

くが、会場の都合上、先着100人の予約限定で開く。毛利代表は「人類の長い歴史が、わずか70年の核開発で壊されてしまうかもしれない今こそ、多くの

人にこの劇を見てほしいと思った」と来場を呼び掛けている。予約や問い合わせは、すわこ文化村(電話080・1040・7463)まで。